

# 新たな健診モデルを

## 弘大、ライオン「歯科保健検査」開始 市職員 即時指導、健康増進検証

弘前大学の健康未来イノベーションセンターで2日、同大とライオンによる「歯科保健検査」がスタートした。口腔に特化した啓発型健診で、新たな歯科健診モデルの開発を目指す初の試み。初日はモニターとして弘前市の櫻田宏市長ら20人

が参加し、唾液検査などその後、その場で口腔健康度向上に向けた指導を受け、健康増進につなげた。弘大COIプロジェクトの一環。弘大とライオンからの提案を受け、市が実証フィールドを提供し、市歯科医師会が協力した。

同大は、健康への意識改革や行動変化につなげようと、健康リテラシーの高い受診後に、即時に本人に結果を伝えて健康教育を行う「啓発型健診」を推進している。今回の歯科保健検査は、短時間で結果が出るライオンが開発

した唾液検査システム。口腔に特化した健診。同日を活用するなどした口唇を皮切りに4日間

で、公募で集まった市職員80人が健診を体験し、半年後に同じ健診を受けることで行動の変化や口腔健康度の向上を検証する。これにより新たな歯科健診モデル開発やサービスの弘大とライオンの「歯科保健検査」がスタート。対象者の行動変化や口腔健康度の向上を検証し、啓発型健診としての歯科健診モデル開発を目指す。

展開につなげる狙いだ。同日は対象者が口臭や唾液の検査、口腔写真撮影、同大の歯科医師による検査を受けた後、ライオンの研究開発本部弘大COI担当の和野啓二さんから専門家から直接指導を受けた。櫻田市長は「結果がすぐに出るということが意識啓発に役立つと感じた。先進的な取り組みとして弘前はもと

より全国に広がることを願う」と話した。COI研究推進機構の村下公一教授は「口腔の健康と全身の健康との関わりは深いとされる。実証モデルを短命県返上につなげていきたい」と述べた。同検査は地域の健康づくり拠点として今年5月に開所した同センターを活用する初めての事例となる。(成田真由美)



同日は対象者が口臭や唾液の検査、口腔写真撮影、同大の歯科医師による検査を受けた後、ライオンの研究開発本部弘大COI担当の和野啓二さんから専門家から直接指導を受けた。